令和５年度　学校自己評価システムシート　（私立　春日部共栄高等学校）

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。

重点目標	１ 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 ２ 生徒からの信頼や期待に高い水準で応え得る授業を中心とした教育活動の実践 ３ 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 ４ 生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

＜学校関係者評価委員会＞

協議委員（学校関係者）　７名

内部委員（教職員）　９名

学校自己評価						学校関係者評価
年度目標			年度評価			最終実施日令和６年３月23日
番号	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの評価・要望
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり ②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践 ③生徒どうしが互いに応援しあい達成感を共有できる環境づくり	a.公共マナーや情報モラルの向上を目指す継続的な指導 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問１・２で①②の回答率90%以上** **設問３・４で①②の回答率80%以上** b.生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問５で①②の回答率80%以上** a.ボランティアに対する意識啓発と年間を通じたはたらきかけ **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問６で①②の回答率70%以上** b.災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問７で①②の回答率80%以上** a.「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認めあう意識づくり **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問８で①②の回答率80%以上**	a.公共マナーについては97.7%､挨拶･感謝の気持ちは96.8%､交通ﾙｰﾙについては99.0%の生徒が①②と回答し高い数値で目標に達したが､ｽﾏﾎのﾙｰﾙ作りと節度ある使用については67.3%にとどまった。 b.生徒会や委員会から発信される情報については92.1%の生徒が意識して学校生活を送っている。 a.ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱへの参加･協力では①②に回答した生徒は58.6%にとどまっているが教員の意識は70.0%となっており生徒と教員の意識の差がある。 b.防災意識は①②に回答した生徒は92.3%、教員は88.9%と意識は高い。 a.ほとんどの大会が通常通り実施されるようになり全国大会､関東大会､県大会出場のクラブも多く、相互尊重･応援の意識は①②と回答した生徒は87.6% 教員は83.3%であり目標値を上回った。	B A A	a.「十か条」が定着し、生徒の規範意識に関する自己肯定は高い。しかし､SNS絡みのﾄﾗﾌﾞﾙが散見され､情報ﾓﾗﾙを高めていく必要がある。共栄ﾙｰﾙの一層の周知、内部や外部機関と連携し情報ﾘﾃﾗｼｰ能力の向上に努めていく b.自治活動は教員主導から生徒主導への転換を目指し､粘り強く指導する。 a.募金活動や夢の森公園の植樹活動など地域のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動も積極的に｢快音｣で紹介し生徒へ啓発していく。各委員会によるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動も全生徒へ発信し軌道にのせていく。 b.避難訓練のみでなく方面別通学会を活用しながら下校までを想定した動きも考える。 ・成人年齢引き下げに伴い､消費者教育に力を注ぎ､ﾄﾗﾌﾞﾙの未然防止に努めたい。 a.ｸﾗﾌﾞ会議､ｸﾗﾌﾞ部長会議や壮行会などによるﾑｰﾄﾞ作りの活性化。また、２期制のﾒﾘｯﾄを活かし適切な休養をとりながらメリハリをもたせた文武両道を目指す。	・コロナ感染症が収束に向かう中、生徒会、クラブ活動など４年ぶりに活動が活発となるが互いに応援し合う今までの良い伝統は継承してほしい ・２回の定期考査だけでなく、こまめな小テスト、単元テストは躓きに気付きやすい取り組みである。これらを活用することで学力を向上させ、評価していることは良い。 ・デジタルコンテンツの充実した時代になりこれらを活用した学習の有効性についての検証は続けてほしい。また、経済格差が教育格差に繋がらない配慮や工夫は必要である。タブレットがあったとしても生徒と教師のｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝは大切にしてほしい。 ・LT の活用した成果について一年後の検証をお願いしたい。LT は自学自習のノウハウを伝え合い、切磋琢磨する有効な時間･機会になることを期待している。 ・本年度も生徒中心主義の先生方の熱心な指導の成果が十分に表れている自己評価であったと思う。自学自習に取り組む生徒を増やすための取り組みとして「デジタルコンテンツ・オンライン教材」のより積極的な活用を提案したい。「スタディサプリ」等の利用状況を個別に把握し個人面談等に活用されることを合わせて提案する。 ・２期制導入から始まりここ数年多方面から教育活動へのアプローチがあり、この変化を頼もしく感じています。一朝一夕には結果がでないものも多いかと思いますが、これからも進化を続ける学校であってほしい。 ・45 分･７限･２期制･定期考査２回の２年目の効果測定的な資料もお願いしたい。 ・HP のﾘﾆｭｰｱﾙで見やすくなったことは良かった。これからも旬な情報発信を期待したい。
2	①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践 ②２期制･週５日･45 分７限授業を踏まえた取り組み ③授業点検と改善の実施	a.生徒個々の家庭学習計画の作成と実践 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問９･10･11･14･15･28で①②回答率70%以上** b.個人面談を中心とした生徒個々人に応じた学習･進路･生活指導の充実 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問24で①②の回答率80%以上** **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問２で①②の回答率80%以上** a.２期制を踏まえた授業や各種試験の工夫と改善 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問12･16で①②の回答率70%以上** b.長期休業中の取り組みと工夫 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問13･28で①②の回答率70%以上** a.授業ｱﾝｹｰﾄの活用による授業点検と改善 **→授業ｱﾝｹｰﾄ　総合満足度の①②の回答率85%以上**	a.普段から学習計画を立てている生徒は平日42.5%、休日43.2%､試験前を含めると平日78.8%､休日79.5%であった。自学自習時間は平日2時間以上が51.6%、休日3時間以上が55.5%であった。 b.個人面談では88.9%の生徒が役立っているという評価であった。保護者の方も87.3%がｵﾝﾗｲﾝを含めたHRや面談を評価していただいている。 a.小ﾃｽﾄ等取り組めている生徒は79.7%､学習･部活･休養がﾊﾞﾗﾝｽ良くとれている生徒は80.3%であった。 b.長期休業中も学習にしっかり取り組めている生徒は76.7%､またChromebookを学習のために有効活用できている1･2年生は85.5%であった。 a.授業に対する総合満足度は92.9%の生徒が①②に回答､教員の授業点検も85.2%と上昇している。	B A A	a.週5日制土日の有効活用を促すとともに､課題についても教科間の調整をし、週１回の LT を設け自学自習の足掛かりとする b.面談を通して観点別評価に基づき日常的な取り組みを促進させるような指導をしたり、行事や試験の配置を調整し学習の継続性を高めていきたい。 a.各教科同時期に小ﾃｽﾄが集中したりしないよう調整し生徒が計画を立て学習しやすい工夫が必要。面談を通して学校生活がﾊﾞﾗﾝｽ良く送れていない生徒へのﾌｫﾛｰをしていく。 b.長期休業中もｵﾝﾗｲﾝ等を活用し､学習を促す働きかけを定期的に実施することが重要。 a.ICTを活用した授業の実践によるｽｷﾙｱｯﾌﾟ。	
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択 ②授業の充実と進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	a.学年に応じた説明会や進路フェア､講演会､「Academic Issues」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問17･18で①②の回答率80%以上** b.オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問18･19で①②の回答率80%以上** c.生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問７で①②の回答率70%以上** a.各種講習や試験の整理および充実とその活用 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問20･21･22･23で①②の回答率80%以上**	a.「Academic Issues」等が役立っていると回答した生徒は64.0%で目標値に届いていなかった。 b.進路説明会等が役立っていると回答した生徒は72.0%であった。3年生のみで見ると73.3%(昨年90%)であった。 c.保護者説明会では77.3%の方が参加し(ｵﾝﾗｲﾝ含む)そのうち88.3%の保護者が①②に回答している。 a.長期休業中の講習･勉強合宿等が役立ったと回答した参加生徒は85.5%､日常講習が役立ったと回答した参加生徒73.2%､試験の見直しをしている生徒79.6%であった。	A B	a.「Academic Issues」の内容を生徒に周知させるためにも面談等で活用する。発行回数や内容を吟味し､より一層の充実を図る。 b 学部や学科のｶﾞｲﾀﾞﾝｽなど1･2年生から仕掛け､目標大学を設定させていく。次年度は春に高校2･3年生対象の説明会を設定 c 引き続きｵﾝﾗｲﾝと併用しながら保護者参加の進路説明会を作り上げていく。 a.長期休業中の講習に参加していない生徒が29%､日常講習に参加していない生徒が44.6%と数値が高いことから､二期制の中で再度学習と部活のﾊﾞﾗﾝｽを考えたｽｹｼﾞｭｰﾙ調整と生徒への告知方法について検討したい。	
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	a.ホームページの充実と効果的な運用 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問８で①②の回答率80%以上** b.保護者向け連絡システム(BLEND)の有効活用 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問９で①の回答率80%以上**	a.ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを閲覧した保護者の93.7%が見やすい、わかりやすいと評価している。 b.BLENDについて役立っていると回答した保護者は70.9%､②の回答を含めると98.5%と高い評価であった。	A	a.昨年 4 月よりﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞのﾘﾆｭｰｱﾙを行った。閲覧された方々からは好評である。今後より見やすい情報提供をしていきたい。 b.出欠状況について保護者も把握しやすくなったが教員側のミスも散見されるので定期的な確認が必要である。	